



英雄

の

条件



王都より  
西に位置する  
魔法士の森

ここでは  
英雄の  
一族による  
魔法専門の  
訓練が行われる

フレイム!



うわっ

アルクス様!



すみません  
加減を誤って  
しまいました

いや  
油断した  
僕が悪い

にしても  
エリスの  
魔力の前では  
防魔法も  
紙同然か





…私など

貴方の  
足元にも  
及びません



さすが  
偉大な  
魔法士  
マゴ様の  
末裔だ

英雄の  
血筋は  
伊達じや  
ないな



エリスなら  
何か知ってる  
んじゃないか？



そうだ！

森の奥地に  
魔力を  
増幅させる  
魔法の木の実が  
あるって  
伝説なんだけど



修行の身で  
ありながら  
そんな物に  
頼るようでは  
魔王討伐など  
到底…

いや、別に  
楽しようって  
わけじゃない  
んだって



…  
アルクス様

あなたは  
勇者の  
血を引いて  
いらつしやる  
んですよ



伝説は  
あくまで伝説

日々鍛錬を  
怠るような者には  
かえって毒になる  
代物です

焦る気持ちは  
わかりますが

伸び悩むのは  
成長の証ですよ



どうにも  
このところ魔力が  
伸び悩んでるんだ

君を  
師事する  
期間も  
限られて  
いることだし

何かできる  
ことは  
ないかと  
思ってた



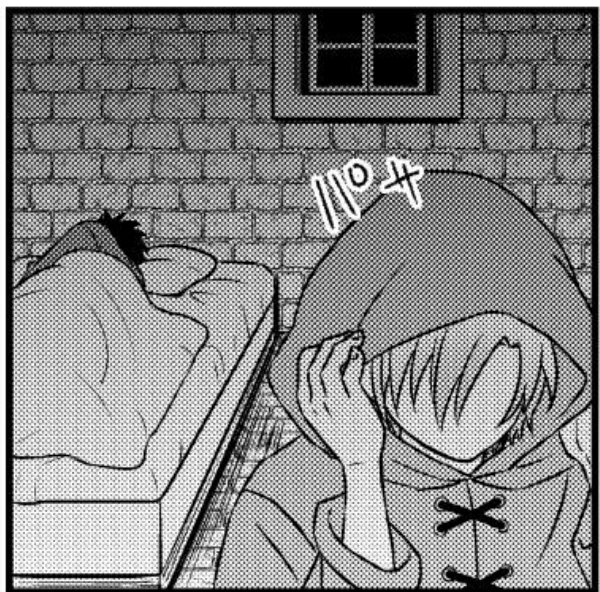
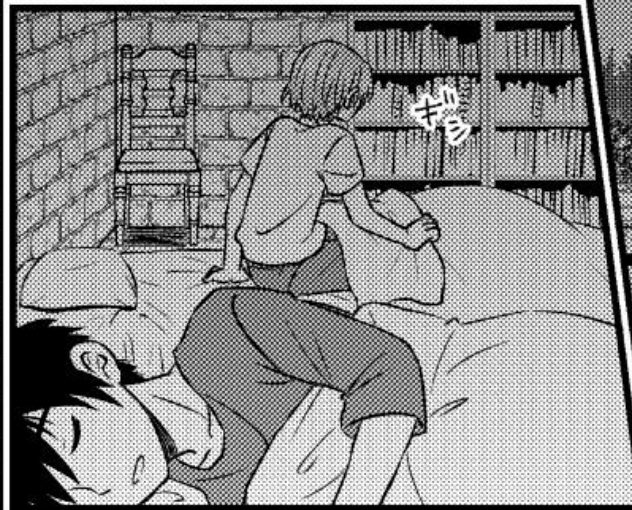
私の手で  
きつと  
育てて  
みせますから

そんな物の為に  
貴方が  
危険を冒す  
必要は  
ありませんよ



……怠ってる  
つもりは  
ないんだけどね……

貴方は  
“才能に  
恵まれた”  
希少な  
逸材です



魔力の強さは  
元来の資質を  
己の資質を  
超える  
ことはない



幾重にも  
張り巡らされた  
結界の先

食べれば  
魔力が  
増幅する

魔法の  
木の実は  
なるという



故に

禁断の果実  
と称される  
その実は



落ちこぼれメ

採取の際に

また  
食べたの  
来たの  
かに

何らかの  
肉体的・精神的  
苦痛が伴う



……黙れ！  
消しズミにか  
されたいのか



我が  
消えて困るのは  
お前だロウ

シューッ



くっ...!

ザッ  
ア



さっさと  
済ませろ……!

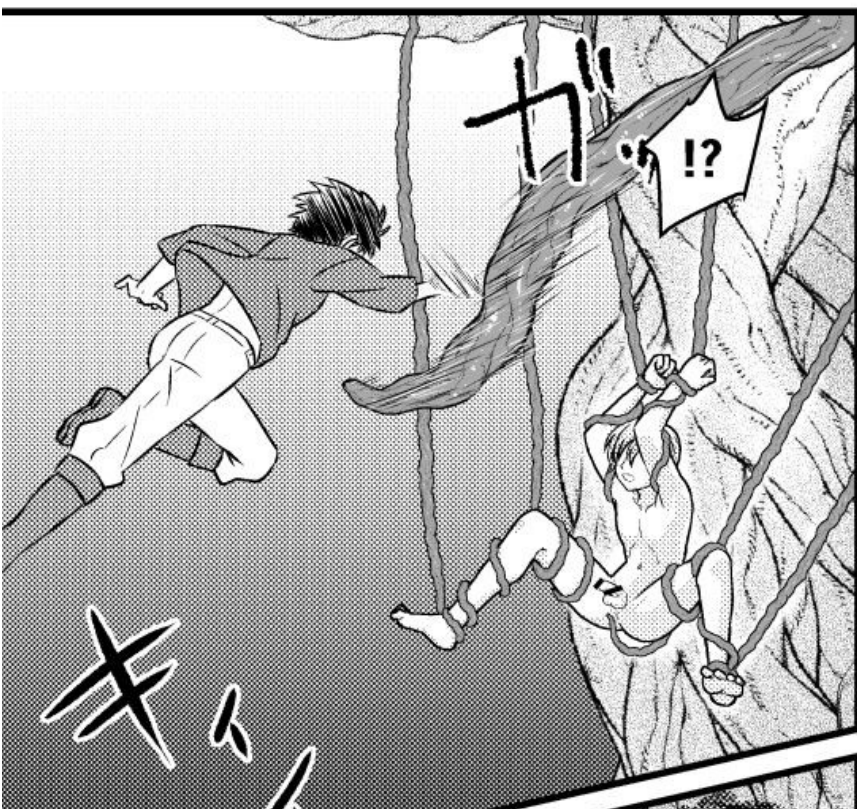
戯言に  
付き合う  
暇はない



私の実が  
余程美味い  
らしいナ

単なる  
好色ダ

でなければ



ガッ!?



急いても  
得にならないゾ

あっ

はっ

今夜は特別ダ



さて……  
どう  
料理して  
やろうカ



ガッ



ア……  
アル……クス……  
さま……!



チイ



誤解がある  
ようだな

はっ

ああっ

コイツは  
自ら私の  
餌食になり  
来てるのだゾ



エリスを離せ

化物め!



アルクス様

くっ

ビィィ



黙って  
そこで  
見ていろ

ホッ



条件だど?

小僧  
英雄になる者の  
条件を  
知っているカ



か...彼に...  
手を出すなっ...

ギニッ

無粋な輩に  
解らせて  
やるまでダ



よせっ...  
あっ!!

しかし  
例外が居ル

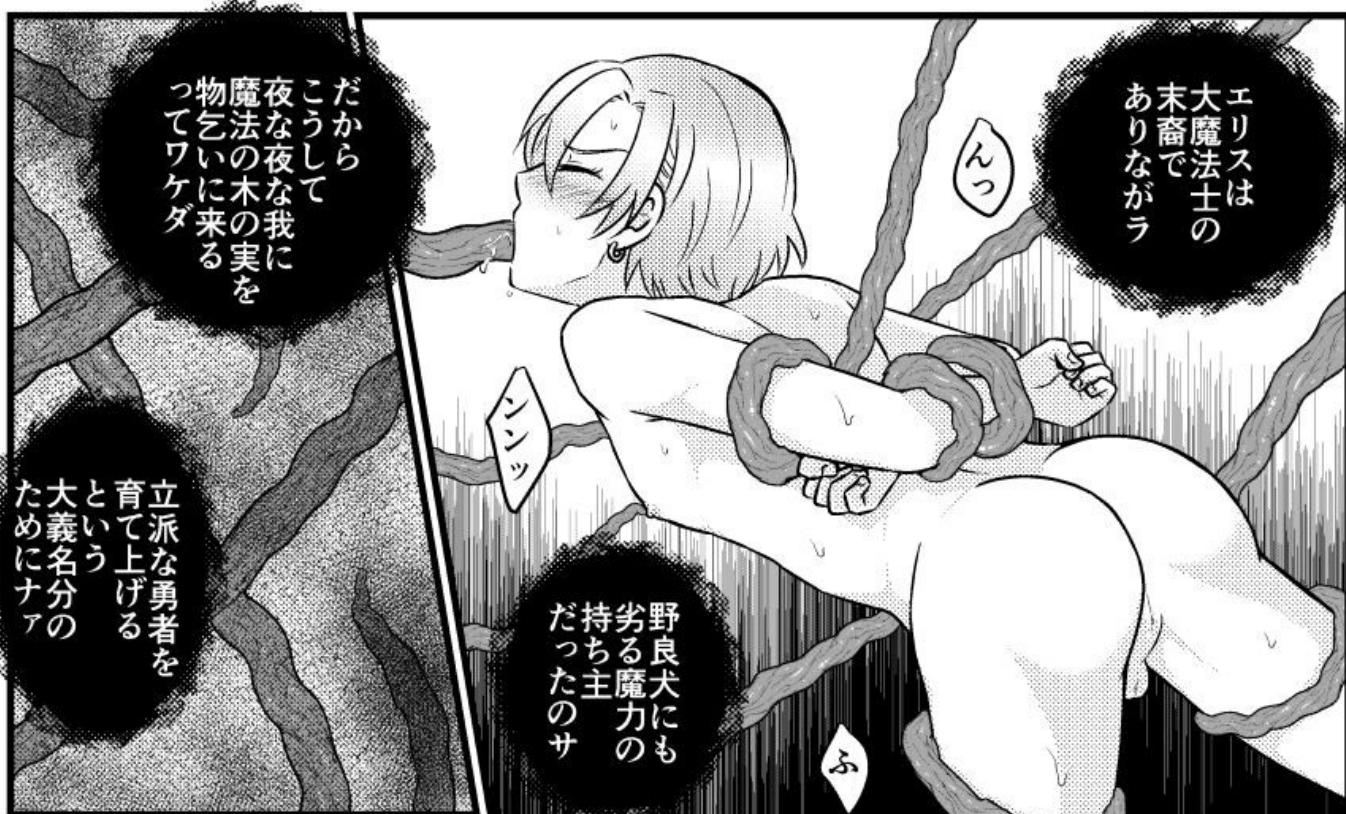
ズブッ



血だ...  
大衆は...  
幾年に渡り  
英雄の血族を  
祭り上げてきた

当然ダ  
殆どは  
遺伝で才能が  
継承される

!



エリスは  
大魔法士の  
末裔で  
ありながら

だから  
こうして  
夜な夜な我に  
魔法の木の実を  
物乞いに来る

野良犬にも  
劣る魔力の  
持ち主  
だったのサ

立派な勇者を  
育て上げる  
という  
大義名分の  
ためにナア

んっ

ふ



実を採取  
できるのは  
我に  
選ばれた  
者だけだ



なんでこんなことを...



こいつの魔力は希少な珍味

味見する替わりに

実をくれてやってるのサ



この反応を

捌られ慣らされた身体だ





この程度で  
満足できる  
身体力

あッ

くっ



許しを  
乞うのは  
得意だろウ

ズズ...

ズ...

どうした

う...ッ

んっ



ろくでもないゾ

強情を  
張るト



あッ

ミギッ



やめっ...

ぬ...抜け...

びっ

びっ



んっ

ッ!!



必要なんです  
貴方には…  
強力な  
指導者が

力のない  
私には  
しかな  
うする  
か…



見ないで、っ…

見ないで  
ください…



うあああ  
あ

血筋など  
呪いとい  
うに

身に余る  
使命を  
背負い

搾取される  
ことでしか  
一族に貢献  
できぬとハ









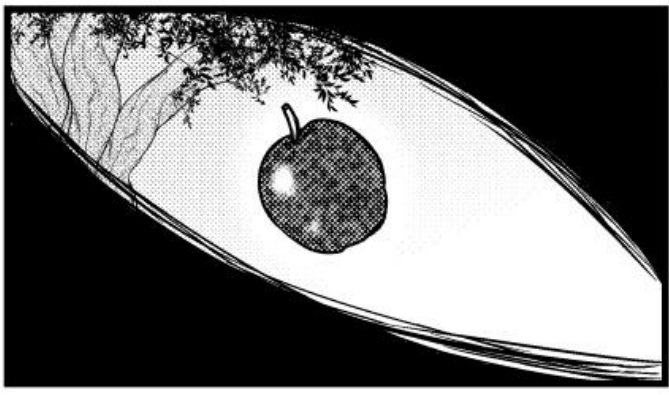






うんんんんんうッッ!!

ゴッ



はあ

あ...

はあ



ホッ



ほらこれ

……!



私は……っ

ああ  
そのまま  
いい



エリス!  
気が付いたか



能力を  
偽るなど……  
師として  
あるまじき  
行為です

……  
申し訳  
ありません



伝説は  
本当だった  
んだな

驚いたよ

触れるのも  
躊躇する程の  
魔力の濃度だ



君は王宮から任を受けて僕を指導する義務がある

途中で投げ出すのは一族の存続に關わる重大な離反行為だ



答める気はないよ

君は君のやるべきことをしたただけだ

ですがこんなことはもう……



君も同じ考えなんだろう？

英雄の血を受け継いだことは誇りだ

使命の為ならどんな犠牲も厭わない

も……もちろんです



……それは……

エリス……僕は……この世界の為に生まれてきた



ああ良かった！



だったら

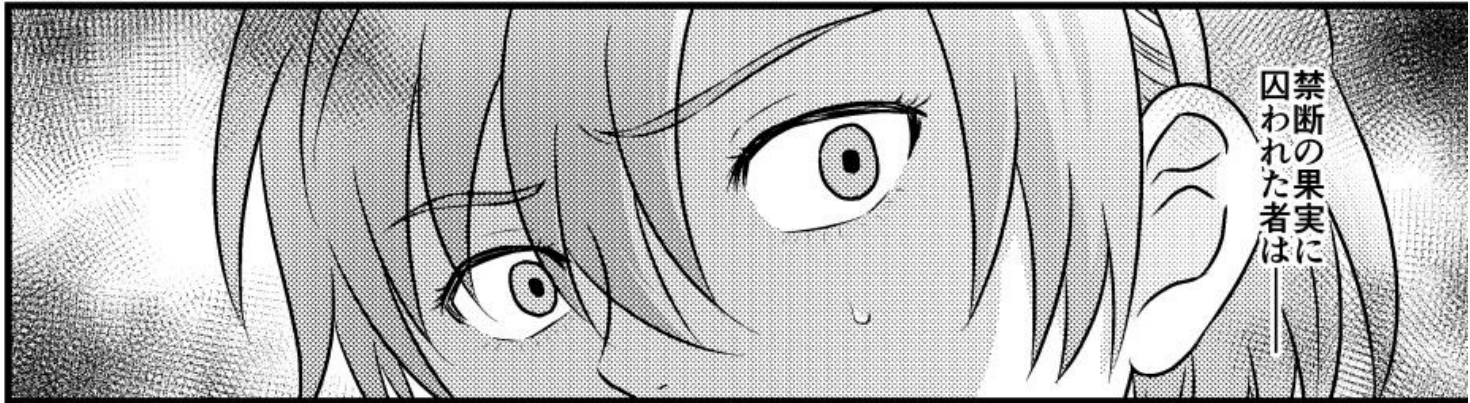
これから僕に師でいてくれるかい？

……はい



それを聞いて  
安心したよ

ノキン



禁断の果実に  
囚われた者は

永遠に逃れられない



